K 母の手記

・自分の中の変化

娘は出生後すぐの聴覚スクリーニング検査で２度リファーとなり、その後、２つ目の大学病院での再検査で難聴と診断されました。当時の私は全く知識がなく、補聴器をつければ、普通に聞こえて話せるのではないかと思っていました。

病院で療育の学校を紹介された際、療育施設に通わなければいけない程悪いのかと改めて落ち込みました。その後、生後８ヶ月から早期教育相談に通い始めました。

聴覚障害があっても、元気に明るく過ごす子供達の姿を見たり、先生方やお母さん方、難聴者やろう者の方のお話を聞いたり、色々な経験をさせて頂く事によって、難聴があっても悲観する事はないと思えるようになりました。

・子供とのコミュニケーションで大事にしてきたこと

目を見て伝えることを意識しました。

今まで目線を合わせる事に意識した事はなかったので、最初は難しく感じました。

自分で動き回れるようになると、伝えたい時に見てくれず、自分の方を見ていないのに話しかけたり、手話をしてしまう事もありました。

娘が何に興味があるのか観察したり、「どっちが好き？」と選んでもらったりしてコミュニケーションを取れるように心がけました。

11 ヶ月頃からは指さしして興味のある物を教えてくれるようになり、反応を示した物を一緒に見て話をするように心掛けました。

・子供との生活習慣で大事にしてきたこと

「ごはんを食べる」「おむつを替える」「お風呂に入る」「着替える」「歯をみがく」など毎日必ずやることから、手話と声掛けをしながらコミュニケーションを取るようにしました。

・自分が努力してきたこと

早期相談に通うようになり、手話の大切さをとても実感するようになりました。

最初は手を使いながら話すことに慣れず、躊躇しながらでした。覚えては忘れてしまうという繰り返しで、なかなか覚えられず、焦るばかりでしたが、少しずつでも前に進めるよう努力していこうと思います。

あとはろう学校にできる限り通うことです。

ろう学校で教えて頂ける情報はとてもありがたく、娘と過ごす生活の中での関わり方を

沢山得られる場所でした。まだ、難聴の子を育てるという事に全然自信もありませんが、娘の成長と共に、自分自身も少しずつ成長していきたいと思います。

これからも「聴こえない世界」をもっと理解し、娘とのコミュニケーション方法を模索し続けていきたいと思います。

最後になりますが、先生方、早期教育相談お母さん方、いつも色々教えて頂きありがとうございました。

これからもよろしくお願いします。